

株式会社エーゼット

カメラ店から独立創業後、医療機器、洗浄機器、鮮度保存シートの分野へ第二創業を推進。次々とアイデアを事業化し、世の中に送り出す「株式会社エーゼット」代表取締役社長の菅野稔氏にお話を伺いました。

メディカル、ポレハ、新電解水洗浄装置 出会ったアイデアを次々と形にして 事業化する第二創業型企业



菅野 稔 社長

会社概要

入居BI T-Biz(東北大学連携ビジネスインキュベータ)

代表取締役 菅野 稔

所在地 本社:宮城県仙台市青葉区木町通2-3-19
バイオサイエンス研究所:T-Biz

事業概要 医療機器、洗浄機器、ポレハ製品の製造・販売

URL <http://www.az-ltd.co.jp/>

- 1986年 ■ 株式会社エーゼット設立
- 1999年 ■ デジタル事業及び新製品開発に着手
- 2007年 9月 ■ T-Bizに入居(バイオサイエンス研究所を開設)
- 電解水洗浄装置、ポレハの開発を本格始動
- 2012年 ■ 歯周病治療機について東北大学と共同研究開発開始
- 2014年 ■ ポレハ事業の海外拡販開始

起業、会社のおいたち

—— 起業の経緯について教えてください

株式会社エーゼットは、私がカメラ店に30年ほど勤めた後、1986年に独立して立ち上げた会社です。カメラの専門店として、最大で19店舗を持つまでに成長しましたが、1998年頃から、カメラ業界に大変革が訪れました。デジタルカメラの普及が始まり、カメラ専門店のニーズが急速に低下したのです。当社は、カメラで培ったノウハウを活かして、医療用内視鏡フィルムから、内視鏡画像管理システム、電子カルテシステムへと事業転換を図りました。「メディカル事業部」を立ち上げ、医療用の情報システムや医療機器、医療消耗品の企画・開発・販売へとシフトしていきました。

—— 常に様々な新事業にトライされている印象がありますが

T-Bizがオープンするちょっと前、今から8年ほど前から、当社では東北大学と連携し、電解水を用いた内視鏡洗浄装置と、食品の鮮度保存シート、歯周病治療機の開発に着手していました。T-Bizは、東北大学のキャンパス内に立地し、大学と連携する上で好環境であることから、5階全部を借り上げ、「バイオサイエンス研究所」を設置しました。

私は、中小企業も自ら研究所を持つべきだと考えています。製品のサイクルはどんどん早くなっています。研究開発専門の部署を設け、次々と開発していかなければ、あっという間に取り残されてしまいます。また、下請けではいつまで経っ

製品紹介

生鮮物の保存素材「ポレハ」

ポリフェノールが持つ抗酸化作用とトレハロースが持つ保水効果を応用して、食品の鮮度を長持ちさせる保存シート。例えばバナナをポレハで包装すると、店頭における期間が3日は長くなる。リンゴなら常温で1か月間保存することが可能。輸送時間や保管日数に余裕が生まれるとともに、設備やエネルギーのコスト低減が期待できる。



ても利益が出ない。付加価値の高い自社製品を開発することで利益を出し、それを元手にさらに研究開発を推進する。それを続けることが大切だと考えています。

事業の展開と現在

—— 取り組まれている新事業のうち、

いくつかの研究開発の成果が結実間近だそうですね

ポレハ(鮮度保存シート)事業では、2015年4月から中国での製造・販売が始まります。地元の企業と設立した合弁会社の工場がいよいよ完成しました。当社のポレハは、抗菌、抗酸化、消臭の作用が特徴で、生鮮食品を包むと鮮度を数日間長持ちさせることができます。国内ではすでに米や枝豆、果物の包装材に使用されていますが、今回はバナナ包装用の袋を生産する計画で、当社は、この袋にプリントするポレハの原料を日本から中国へ輸出します。中国の他にも、インド、インドネシア、マレーシア、オーストラリア等から、肉や果物、米の包装材として引き合いが来ています。

歯周病治療機は、過酸化水素へのレーザー照射によって生成するフリーラジカルを用いて歯周病菌を殺菌するもの



中国・南京に完成したポレハの工場

です。2017年度中に販売開始する計画で、現在は治験および薬事申請中です。日本国内、そして海外の歯科医からも高い評価を受けています。

電解水を用いた洗浄装置は、すでに内視鏡洗浄用のものを製品化していますが、家庭用、農業、漁業、畜産、食品加工、衛生管理、クリーニング等向けに用途を拡大し、国内外で販売していく予定です。

—— 宮城県内に自社工場を建設する計画と

お聞きしています

多賀城市が津波復興拠点として整備する工業団地に、自社工場を建設する計画です。2017年度中に稼働開始し、ポレハ、歯周病治療機、電解水洗浄装置の製造を行うほか、現在T-Bizに入居している「バイオサイエンス研究所」も移す予定です。国から半額補助(津波・原子力災害地域雇用創出企業立地補助金)を受けて整備しますが、利益を出して法人税を納税するとともに、新たな雇用を生み出すことで、補助に見合った分は必ず還元する意気込みです。

そして、これから

—— 今後の展望をお聞かせください

複数の大学と、新たなテーマについて共同研究を行っており、2~3年後に商品化できればと考えています。生きているうちに実現できないほど、たくさんのテーマを持っています。本を読んだり、講演会や大学の成果発表会に参加して、常に事業のタネを探しており、「これは」というタネを見つけたら、大学に共同研究を提案します。どうやってビジネスを作るかを、本当に毎日考えています。

インキュベーションの利用

◆ 入居のきっかけ

電解水洗浄装置、食品の鮮度保存シート(ポレハ)、歯周病治療機の開発について東北大学と連携を始めたところに、同学内に新設されたT-Bizに自社の研究所を持つことで、研究をスピードアップできると考えたから。

◆ 入居しての変化

電解水を用いた内視鏡洗浄装置とポレハはすでに製品化して販売しており、ポレハについては海外での販売も開始。歯周病治療機については治験・薬事申請の段階まで進んでいる。

◆ 入居してよかったこと、将来の入居者へのメッセージ

国による中小企業支援施策が整いつつあり、今は中小企業が伸びる絶好のチャンスだと感じる。中国等の他のアジア諸国と比べて、ビジネスを創出する社会インフラは日本がはるかに充実している。この高度なインフラと好環境を活かしてアイデアを生み出し、海外へ打って出るべきと考える。

T-Biz(東北大学連携ビジネスインキュベータ)

from IM

IM 大原 隆義



同社は、中国への海外展開を果たし、また、東日本大震災からの復興にも貢献するなど、仙台市を代表する元気な中小企業です。強みは、旺盛なチャレンジ精神。アイデアと行動力に溢れる菅野社長のリーダーシップのもと、常に挑戦を続けています。T-Bizと中小機構は、同社の更なる成長をサポートしていきます。



T-Biz(東北大学連携ビジネスインキュベータ)

T-Bizは、東北大学青葉山キャンパス内に立地し、東北大学と連携してビジネス展開を図る企業にとって最適の環境です。2015年12月に市営地下鉄東西線が開通すると、仙台駅からの所要時間が約10分になり、交通アクセスが格段に改善されます。IMが常駐し、事業計画の作成や資金調達、販路開拓など、入居企業の様々な課題解決をサポートしています。



B1 紹介

〒980-8579
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-40
Tel.022-726-5866 Fax.022-721-0630